

「学社融合」学校と社会の融合を考える
- 千葉県習志野市立鷺沼小学校から学ぶ -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

9月に入りましたが、皆さんお元気にお過ごしのことと思います。今朝の「開倫塾の時間」では、学校と社会をどんぶうに融合して、学校にとってもいい社会ができるか、社会にとってもいい学校ができるか、これを考えていきたいと思います。

このことを考えるきっかけになったのが、先日の東京にあります経済同友会の教育問題委員会です。たまたま千葉県の習志野市鷺沼小学校の校長先生をなさっていた宮崎稔先生という、大妻女子大学の非常勤講師をされている先生を講師としてお招きし、お話を伺う機会がありました。委員会で非常に詳細にお話をお伺いしましたので、鷺沼小学校の取り組みが皆様にも参考になるかと思ひましてご紹介をさせていただきます。

2. 「学社融合」学校と社会の融合を考える - 千葉県習志野市立鷺沼小学校から学ぶ -

(1) 鷺沼小学校には、空いている教室がたくさんあるということです。今、小学校が少子化で子どもたちが少なくなっていますので、教室が空いています。その空いている教室を朝の9時から夜9時まで365日地域の方に空き教室を開放しているそうです。非常にいい影響があったというお話を聞きました。例えば陶芸教室を地域の方がおやりになるために教室をお貸しになったり、いろんな料理を作ったりとか、いろんな形で教室をお貸しになっている。

(2) 鷺沼小学校では、授業以外でも地域の人々が子どもと交流がありますので、学校という今まで聖域であったわけですが、今では、大人と子どもが活動するわけですので非常に世代間の交流が活発になった。技術を持たない人も自由に参加できますので、若い父親とか母親が子どもとともに参加をして、高齢の方々と共に活動しますので、非常に地域のコミュニケーションがよくなった、ということです。

(3) 例えば、鷺沼小学校の「おやじの会」というのがあって、そこでやきいも会をやったそうですけれども、この場合は廃材を切ったり、たきぎ割りをすることから始めた。子どもたちも小学6年生になればまさかりを使わせて、非常に協力的にやっていく。「おやじの会」では非常に厳しい約束があって、6年生になるまではまさかりは使わせない。こういうルールもあるそうです。

- (4)それから、技術をもっている人は、生きがいをもって小学校の授業にも参加をしているそうです。高齢者の生きがいは、人々の役に立ちたいと役立ち感を持ちながら生きつづけることだと思うんですね。子どもたちにいろんな事を教えますと、町で子どもたちに出会ったときに声をかけられたりする。非常のこれが無上の喜びになって、生きる生きがいに繋がるということです。高齢者には技術があります。時間もありません。子どもの学びのペースで待つこともできますので、非常に皆さんから喜ばれているようであります。
- (5)例えば戦争体験の語りの授業を総合学習の時間にやられた方もいらっしゃいます。その方は、今、病気で療養中ですがけれども、枕元には子どもたちからの感想文がきていて、来年も元気になって6年生に戦争体験を語れるようにしなければということで、療養に励んでいらっしゃるということです。
- (6)こういう形で教室にいろんなボランティア活動として学校をお借りしている皆さんがどんどん入っていくことも非常におもしろい。毎日毎日生徒さんと一緒に大人も学校に来てますので、安全を守るということでいざというときは、日常的な活動の積み重ねですね。学校からの子どもを守ろうという呼びかけがあったとしますと、地域としてはその学校に来ている方々を中心にすぐに反応します。これはどういうことかと言いますと、自分の孫とかが通う学校、それから自分の子どもが通っている学校、今まで自分の子どもが通っていた学校を、それから自分たち学校にいつも行っているわけですので、自分の学校と言うことで「おらがまちの学校」そのものということで、非常に安全に関する参加というものが促進されているようであります。
- (6)担任以外の大人が、日常的に学校に来ているわけですので、大人が日常的に教室に来てくれるという雰囲気非常に盛んになってきてまして、これが担任の先生も頑張る。担任以外の人、社会の方々も教室に入ったりしていますので、担任の先生が授業を大切にする。ということで、校内で非常にいい意味での緊張が出てきていいということです。
- (7)ボランティアによる放課後の授業も、大人たちが陶芸のクラスで活動していますので、学校が終わってから、授業が終わってから子どもたちを放課後陶芸のところに行って、一緒にやる。そうすることで、子どもたちも楽しみであるし、大人も楽しみになる。そんなことで無理のない範囲で子どもたちのふれあいが活発に行われる。共に地域で活動する、生活をする大人、特に高齢者の方と一緒に活動しますので、子どもたちも大喜び、大人も大喜び、特に高齢者も大喜び。このような活動が継続されると、教育内容が充実をして学校そのものが非常に豊になって、大人の喜びにもなり、地域活動が積極的になります。
- (8)コミュニケーションの幅が広がり、人間関係づくりの能力が非常に促進される。そういうことでまちづくりにも非常に役に立つ。不登校の子がこの学校でゼロになったそうです。それから子ども

もたちからむ犯罪が激減して、犯罪がなくなって子どもたち関係の犯罪がなくなった。最終的には大人たちは自分の学校から犯罪の被害者をださない。自分の卒業生から犯罪者を出さない。ここまで意識が高まってきて非常に熱心に活動されている。

(9)成長して中学生になったり、高校生になったあとも、放課後とか休日にも学校の先生は転勤でどこかへ行った方もいますが、多くの地域の方は転居しませんので、地域の方が子どもを見守ることで、中学生、高校になっても休みの比や放課後にもそういうところに通っていらっしゃる方が非常に多くて、非常にいいえいけよう原風景といいいますか、子どもが最初に接した風景が人間形成に及ぼす影響が大きいので、このような学校と地域が融合するという学校と地域社会が融合するという、「学社融合」といいいますが、それが非常に素晴らしい活動だと思います。

3. おわりに

今日は千葉県習志野市立鷺沼小学校から勉強させてもらったことを、皆さんにご紹介しました。ぜひ栃木県でも千葉県での取り組みを参考にしたらいいかなと思います。

以上

2008年8月20日加筆